

## 弘前大学フランス語ホームページの試み

《Place de la Francophonie》 <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/french/>

熊野 真規子

KUMANO Makiko

Université de Hirosaki

(HP 運営グループアドレス) [french?cc.hirosaki-u.ac.jp](http://french?cc.hirosaki-u.ac.jp)

### 1. はじめに

弘前大学では、21 世紀教育（一般教育）の多言語コミュニケーション実習の枠組みでフランス語 I（教員 1 名による週 2 回、半期 30 回、2 単位）、フランス語 II A（フランス語 I の続き、週 1 回、半期 15 回、1 単位）、フランス語 II B（II A と並行して履修することを勧めている仏検受験、会話などの目的別クラス：週 1 回、半期 15 回、1 単位）フランス語 III（フランス語 II A の続き）の授業を行っている。全クラス統一の総合教材タイプの教科書を使用しているため、文法の進度は遅く、従来の初級文法を終えるにはフランス語 III まで履修を継続する必要があるが、卒業に必要な単位は、フランス語 I の 2 単位でみたされる。フランス語 II、フランス語 III への継続履修者をいかに増やすかが、フランス語教育担当者の課題である。

一般教育以外のフランス語としては、人文学部で開講されているフランス語実習 I A～III A（2 年次前期～3 年次前期：週 1 回）、I B～III B（ネイティブによる週 2 回の集中タイプの授業：2 年次前期～3 年次前期）があり、一般教育のフランス語 II の履修を終えた学生が対象である。フランス語実習は、人文学部の欧米文化コース、国際社会コース、思想文芸コースの選択必修科目になっている。従来のフランス語学科やフランス文学科のような専門性はないが、姉妹提携校のボルドー大学等への留学希望を持つ学生の多くは、留学前にフランス語実習を履修している。

（フランス語カリキュラム解説は、HP に掲載）

### 2. HP 立ち上げまでの経緯

2007 年前期末に初級学習者（フランス語 I 履修者）を対象に行ったアンケート調査の結果、学生の興味・学習継続への思いと、時間割編成など制度的な問題との齟齬が明らかになった（アンケート集計結果の詳細は、HP を参照）。学習を継続するための履修システムが不十分である点を補い、自律学習への誘いとモチベーションの維持、フランス語 II、III への継続的履修を促すことなどを目的にフランス語部会（専任および非常勤のフランス語教育担当者）で企画したのが、フランス語 HP

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011

---

《Place de la Francophonie》である。

全学学生を対象とする企画であり、英語に偏重する弘前大学のカリキュラムへの多言語学習推進の意図もあるため、全学サーバー上に他の言語と共にサイトを立ち上げる働きかけをしたが同意を得られず、結果的に人文学部サーバー上にディレクトリを申請することになった経緯がある。そのため、ホームページの存在をどのように広報するかが、立ち上げ以来の課題となっている。

立ち上げにあたっては、《Place de la Francophonie》が、在校生、卒業生、留学生、大学以外にフランス語を学ぶ場がなくなってしまった地域のフランス語学習者、弘前大学以外の地元大学のフランス語学習者の交流の場、フランス語を通じて相互的に刺激を与えあえる広場へと成長することを一つの理念とし、2008年1月からコンテンツ、原稿依頼などの準備を開始、HP立ち上げなどに詳しい学生の協力を得て、日仏交流150周年にあたる2008年4月1日の公開にこぎつけた。

### 3. HPの構成

2010年前期に行ったHPについてのアンケートなどで、サイト内の構成がわかりにくいという指摘を受け、詳細を調査したところ、検索エンジンを使った場合に「ようこそフランコフォニー広場へ」のページにたどり着くことが多く、特にフランス語の初学者や受験生はそのページから **Accueil** にたどりつけないことが問題点とわかった。サイドバーや見出しは、マウスを置くと解説や日本語訳/フランス語訳が出るしくみだが、しくみそのもののわかりにくさ、わずらわしさも指摘されているため、サイトマップの表示、構成そのものの組み替え、サイドバーの表示工夫などの改善を検討中である。急場の改善策として、現在は **Accueil** がトップページであることがわかるように、**Accueil (トップページ)** と表記している。2011年3月末現在でのHP構成の大枠を以下に簡単に紹介する。

#### • **Accueil (トップページ)** >

Annonces / お知らせ、ピックアップ French Bloom Net、ピックアップ欧州委員会ニュース

#### • **Avenue des Informations /告知板**>

緊急ページ！東日本大震災関連（仮称）、更新履歴、ようこそフランコフォニー広場へ、ピックアップ記事過去ログ、フランス語カリキュラムについて、仏検（実用フランス語技能検定試験）について、フランス語：制度・システムに関するアンケート集計報告 2007、フランス語ホームページに関するアンケート集計報告 2010

#### • **Square des Interviews /インタビュー**>

インタビュー@国際交流センター（2008）、留学生インタビュー（2010）、留学生インタビュー（2011）

#### • **Espace Francophone/ フランス語の世界**>

フランス語の世界へようこそ！、フランス語スタッフ、フランス語スタッフ・リレーコラム、ナタリー河岸〔※パリ在住の元・留学生ナタリーによる連載エッセイ：日本語訳は人文学部フランス語実習受講生〕、“電書”鳩通り〔※学生メッセージ：留学経験者、在学生による寄稿〕、ボルドー直送便 NEW!〔※ボルドー第3

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011

大学に留学中の弘大生による写真と短文のルポ〕、Cercle francophone 活動報告 NEW!、イベント紹介／報告コーナー

### • Point-Rencontres Hirosaki / 弘前&ふらんすねっと >

留学生コラム〔※弘前大学への留学生によるコラム：日本語訳は人文学部フランス語実習受講生、現在は Cercle francophone による〕、弘前ふらんす事情、ふらんこふいりー〔※地域のフランス語学習者による寄稿〕

### • Liens/リンク集

#### 4. 改良に向けての歩み（試行錯誤）

2008年 10月 毎週更新(ピックアップ French Bloom Net、欧州委員会ニュース)

2009年 3月 “ナタリー河岸”の連載エッセイ

2009年 7月 Cercle francophone 立ち上げ(読書会)

2010年 4月 HP 改良のためのアンケート(1年生対象)

HP 開設後半年で毎週更新にこぎつけるが、これは現在も抱える課題の裏返しでもある。HP の開設に異議はなかったが、フランス語教員の大半が基本的にインターネットの世界に不慣れで、HP の「更新」というものに無関心であること、したがって、一般的なインターネット・ユーザーの「更新頻度」の感覚と大きなずれがあることが HP 開設後に明らかになった。いったん開設すれば、HP の編集などに興味ある学生が動かしてくれるのではないかという甘い期待もあったが、実際に学生をそのような場所まで導くには、教員サイドからの熱心でたえまない働きかけが必要である。当時の更新作業担当者（フランス語履修経験のある理系卒業生1名）からの更新頻度についての指摘も受け、まずは毎週、French Bloom Net および欧州委員会ニュースからのおすすめ記事をピックアップする囲みコーナーをトップページに構成、毎週更新があたりまえである状況をつくった。

パリ在住の元・留学生ナタリーによる連載エッセイは、フランス語実習 I A 履修生に取り組んでもらう翻訳の題材として依頼してスタートした。HP 開設時は、親近感を感じるだろうと考え、ボルドー大学などからの留学生によるエッセイの翻訳をフランス語実習履修生に取り組んでもらったが、執筆者によって文体が懲りすぎたり、執筆依頼に快諾しつつも寄稿を得られないこと数知れずで、授業で扱う題材にするには問題が感じられたためである。ナタリーは日本語教育にたずさわっていることもあって教育的配慮に理解を示し、原則として毎月の寄稿に協力してくれた。ナタリーのエッセイは、結果的には、フランス語実習 I の履修生のレベルには難しく、現在の学生のモチベーションを向上させるには、むしろ発信型の課題の方が向いているのではないかと感じている。

2009年7月に自律的な学びと社会人学習者との交流をめざしてHP のオフ会の形で立ち上げた Cercle francophone は、漫画『神の雫』のフランス語翻訳版の読書会でスタートした。社会人との交流は、時間帯の設定の関係で実現しなかったが、留学生との交流を通じてフランス語翻訳の問題点をディスカッションするなど活性化も見られたが、活動の中心メンバーの卒業や留学、交流していた留学生の帰国とともに急に活動が休止状態になり、また、留学生からは『神の雫』は難しすぎるのではないかという指摘も受けた。

## **Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011**

2010年4月に実施したアンケート(1年生対象)は、HP改良のためのアンケートであると同時に、アンケートに回答するために新入生がHPにアクセスすることでHPの存在を知ってもらうという広報の意図も含んでいた。サイト内をめぐる答えが見つかるクイズ(全問正解者の中から1名に卒業生が出版したフランス語の本をプレゼント)と面白かった記事、HPへの意見、要望、提案などの自由筆記のアンケートを組み合わせたものである。

また、回答を各クラス担当が一読し、簡単な集計に協力してもらうことでフランス語担当のHPへの意識を高めてもらうねらいもあったが、回収数ゼロであったクラス、宿題として全員から回収したものの、そのまま私の元へ届けられたクラスがある一方、フランスの絵はがきなどフランスへの興味を高める景品を独自に準備する、平常点のポイント加算などで学生に働きかける、担当クラスの詳細な集計結果をプリントで学生に知らせるなどのクラスもあり、担当者それぞれのフランス語HPへの意識の差が反映された結果になり、HPにどこまで関わるかというコンセンサス、授業準備とHPの両立が時間的・仕事量的に困難なフランス語教員の「および腰」的状況が浮き彫りになった。

### **5. 学生参加によるHPおよびCercle francophoneの活性化**

2010年 8月 学生による更新作業をグループ化

2010年 9月 “ボルドー直送便” 新設

2010年 10月 Cercle francophone 活動リニューアルと“活動報告”新設

学生の自律性の向上、留学意欲の向上など、成果のきざしにつながったと思われるのが、2010年8月の更新作業のしくみの変更、2010年9月にはじまったボルドー留学中の弘大生による“ボルドー直送便”、2010年10月から会話と交流中心に活動をリニューアルしたCercle francophoneとその“活動報告”のコーナーの新設である。

更新作業は、それまでHP作成経験のある卒業生または在校生1名がアルバイトとして行い、ノウハウの引き継ぎが行われてきたが、作業報告のメール送信にもほとんどリアクションを受けられない孤独な作業である点が問題であった。そこで改善策として、2010年前期を担当した3年生が留学のため引き継ぎをすることになった際、グループ体制を試行することにした。

フランス語Iのクラスを通じて募った6名が候補になり、全員がフランス語と更新作業両方に興味を抱いていることがわかったことから、交替で更新作業にあたり、その日の更新作業に直接関わらない学生も、技術的に助け合えるようにかたわらでCercle francophoneの活動、HPのリニューアルなどを検討してもらうことになった。更新作業そのものがサークル的な活気を帯びた反面、とりわけ学休期間は他人任せになる傾向が強くなったため、2011年度は、1ヶ月のシフト表(各2名)で責任の自覚を促すことで改善をめざすことになっている。

2010年9月に新設された“ボルドー直送便”は、アンケートで好評を得た留学体験記をより身近でホットなものにし、もっと体験記を読みたいという要望に応えるべく、更新作業にかかわっていた学生のボルドー大学への留学を機に投稿を依頼し、スタートした。幸い、同期にボルドーへ留学した5名全員の協力を得て、現在

## **Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011**

1～2週間に一度のペースで更新されており、HP 開設当初にフランス語教員が期待していた学生による HP の活性化に一步シフトすることができた。

Cercle francophone は、英語圏への留学からの帰国した元フランス語実習履修生から、会話と交流中心のフランス語サークルを立ち上げたいというタイムリーな相談を受けたことをきっかけに、10月から会話と交流中心の活動へとリニューアルすることになった。活動が軌道に乗れば社会人の francophone との交流にも拡大することを視野に入れ、学生主導で活性化することが決まった。活動リニューアル当初、活動を盛り上げるために更新作業グループに積極的な参加を呼びかけたことにより、同時に HP 活性化のために Cercle francophone “活動報告” を新設する事になり、10月からほぼ毎週、活動のたびに活動報告が更新されるようになった。

### **6. おわりに：成果、課題、展望**

HP はようやく開設から3年を経過したばかりで、その成果を確実視できるデータはもちえないが、モチベーション維持の一助（開設初年度から履修継続学生の増加）、授業への活用（人文学部学生によるフランス語コラムの日本語訳）、Cercle francophone の活性化（参加者のフランス語学習意欲・留学意欲の向上、フランス人のみならずフランス語を学習した他国の留学生との交流も活発化）、社会人学習者・留学帰国者への情報提供、ボルドーへの留学生の発信の場（“ボルドー直送便”）などの一定の成果をあげることができ、改良の試みと偶然の積み重ねによる2010年度半ばのブレイク・スルーを経て、ようやく開設時にイメージしていたスタート地点に立てたのではないかと感じている。

学生対象アンケートはおおむね好評だが、提案や不満のなかに次なる展開のヒントがうかがえる。文字の読みづらさや HP 構成のわかりにくさの改善、フランス語初心者にとってもアクセスしやすい HP にする工夫、初級レベルの授業で活用できるコーナーの新設など具体的な検討課題も山積しているが、《Place de la Francophonie》周辺に学生が溜まりつつある状況を最大限に活用し、前進していきたい。

他方、RPK での発表をめざして協力を依頼した教員アンケートから、HP に対する教員の意識や意見の差が明らかになったが、それぞれの教育ポリシーの反映であろうことを考えると、意識や意見を統一することはおそらく難しい。むしろ、互いの本音を知りえていない現在のミーティングのあり方、建設的なディスカッションができる教員間の連絡のあり方の模索が課題として浮上した。

教員からの働きかけがなければ忘れられがちな HP は、学生が自ずと見たくなる魅力的な HP に作りあげていく工夫も不可欠であるが、授業課題や Cercle francophone の活動を通じて関わりを増やしていくことも現在の学生には必要であるように思われる。そこで、2011年度のひとまずの展望は、HP 更新情報を知らせるメーリングのサービス、試運転中であつた TWITTER の活用（Cercle francophone 関連情報、今日のひとことフランス語などを流していくなど）、Cercle francophone 活動の多様化（月1～2回の社会人学習者との交流、新規参加者の拡大）、授業（フランス語 I）との連動の工夫、“ボルドー直送便”のような発信の場を弘前大学で学んでいる学生に与えることなどである。震災の影響で見合わせた RPK2011 の発表にかえて、その後の経過、成果などを RPK2012 で発表できればと思っている。